

もっと知ろう “陶”

2、瑞浪市天然記念物 水上のハナノキ

国道 363 号には土岐市から恵那市まで「中馬ハナノキ街道」の愛称が付けられていて、実際にハナノキが道路脇に植樹されているので、私たちにとってハナノキは馴染の深い木となっています。水上の東濃カントリー入口にハナノキの大木があり、春秋に真っ赤になって私たちの目を楽しませてくれますが自生ではありません。

水上の水上川川岸（滝坂から田尻へ下る道のすぐ左）に自生するハナノキ(右の写真)は、高さ約 20m の大木で

「水上ハナノキ」として昭和 36 年 瑞浪市の天然記念物に指定されて現在にいたっています。

ハナノキはカエデ科に属し、主として湿地などに自生する落葉樹です。春先(4月の初め頃)に紅色を咲かせることから「花の木」(4月の始め釈迦の誕生(4/8)を祝って花祭りが行われる)の名が付けられました。また、秋の紅葉が美しく、一段と鮮やかなことからハナカエデとも呼ばれています。

ハナノキは日本の固有種で、長野県・岐阜県・愛知県の県境付近に分布し、希少種のひとつとして、絶滅の危険が増大している種(絶滅危惧 2 類)に指定されています。

過去には、陶にもう一つ天然記念物がありました。

猿爪細久手墓地駐車場の下の南向き斜面にあったツルウメモドキがそれです。

ツルメモドキはニシキギ科に属するつる性の落葉樹で、果実は直径 1cm 程度の球形で、ウメに似ていることからこの名がつけられました。猿爪のそれは、樹齢 150 年前後と推定され、近くのクヌギの幹に巻き付いて高さ 11m、幹の直径約 21cm という大型の個体でしたが、平成 3 年枯死(寿命?)のため指定解除になってしまいました。現在は「瑞浪市天然記念物 ツルウメモドキ」と記した石碑のみが残っています。

水上のハナノキが枯れてしまわないことを願っています。



市天然記念物 水上ハナノキ
赤い色が出なくてすいません



現在は石碑のみ
後方のクヌギに巻き付いていました